

★★★第31回 大阪府歯科衛生士会 学術集会プログラム★★★

日時：令和8年1月18日（日）

会場：大阪産業創造館

13:00 開会 会長挨拶

13:05~15:00 特別講演 「歯科診療所における医療安全の為に環境整備」

講師：田中 一弘 先生

＜大阪府歯科医師会 理事＞

15:00~15:15 休憩

15:15~17:00 会員発表

＜座長＞ 山田 恵里 先生

＜新大阪歯科衛生士専門学校 学科長＞

17:00 閉会

《会員発表》

演題1 咬合性外傷を伴う限局型中等度慢性歯周炎 ～歯周外科を踏まえた歯周基本治療～

○宮崎 智代子（吉田歯科医院）

中等度慢性歯周炎に対し、歯周基本治療だけでは改善が難しい深いポケットではあったが、患者の高いモチベーションの維持により炎症の改善が得られた症例を報告する。患者は、53歳男性。右下7番の咬合痛と動揺を主訴に来院。発表にあたり、患者から口頭により同意を得た。口腔内所見は、全顎的に歯肉の発赤・腫脹、プラーク・歯石沈着を認めた。X線所見からは水平性骨吸収を認め、特に両側臼歯部7番に垂直性骨吸収像を認めた。歯周基本検査ではBOP82.1%、中等度歯周ポケットを認め、限局型中等度慢性歯周炎（ステージⅢ・グレードB）と診断された。2025年1月よりOHIとSRPを中心に全顎6回実施し、BOPは19.6%に改善、患者のセルフケア意識も向上した。再評価後も一部深いポケットが残存したため、歯周組織再生療法を実施。術後はBOP・PCR・歯周ポケットの改善が得られ、炎症は安定。咬合性外傷のコントロールにナイトガードを継続指導した。本症例では、咬合性外傷を伴う限局型中等度慢性歯周炎を有する患者さんに対し歯周基本治療と歯周外科治療を通じて良好な結果を得ることができた。

演題2 某歯科診療所の健康教室の取り組み

○角野 萌花、松田 菜穂、山下 政代（三好歯科医院）

当院は大阪市港区に位置しており下町情緒豊かな場所にある。患者層は未就学児から高齢者まで幅広く、中でも高齢者が50%以上を占めており独居や認知症を患っている方もいる。当院で健康教室を実施する目的は口腔内の健康維持だけにとどまらず、全身的な健康維持、増進を図ることにある。また積極的に教室に参加してもらいスタッフや他患者とコミュニケーションをとる事で地域との繋がりを強化し、精神的・社会的な健康の向上を図ることにある。教室は2000年から診療室内で不定期に開催している。実施内容は様々で季節や患者の希望に沿ったものを行うことが多い。一方的に話を聞くだけの形式ではなく、体を動かす活動や発言できる場を設け、受け手が退屈しない構成にしている。

実施後はより多くに活動を知ってもらうために当日の様子や内容を紙新聞として院内に掲示している。今回は 25 年間の活動の歩みについて報告する。

演題3 某市在宅歯科ケアステーションの取り組み ～診療所スタッフ向け研修会の実施～

○岡川 安子、山下 政代（豊中市在宅歯科ケアステーション）

某市在宅歯科ケアステーション（以下ケアステ）は、T市の委託により2016年に歯科医師会内に設立され、歯科医師5名・歯科衛生士2名がコーディネーターとして活動している。ケアステでは、訪問歯科診療の依頼対応、医療・介護関係者との連携支援、研修会の開催などを行っている。通院困難者への歯科医療提供の必要性が高まる中、訪問歯科診療の実施歯科医院は2019年の1割から2024年には2割に増加したが、依然として十分ではない。訪問診療対応歯科医院の増加をめざし、診療所スタッフの理解と関心を高めるために、2024年度に「診療所スタッフ向け研修会」を企画し、受講に負担の無いようにWebによるランチョンセミナー形式で、研修時間は昼休みの30分間とし、月1回、年間5回開催したので報告する。

演題4 歯科標榜のない病院における新卒歯科衛生士の活動報告

○野村彩香（社会医療法人 純幸会 関西メディカル病院）、山下政代（大阪府歯科衛生士会）

K病院は歯科標榜のない急性期・回復期病棟を有する地域医療支援病院であり、包括的食支援を積極的に行っている。2024年に初めて新卒の歯科衛生士が着任した。業務内容として、誤嚥性肺炎予防を目的に、ミールラウンドやNSTに参加し、多職種へ専門的な情報提供を行った。入院中の歯科治療や退院後の歯科的支援が必要な患者へのサマリーを考案し、かかりつけ歯科医や地域歯科医師会との医科歯科連携の窓口として連携を促進した。また、医師や看護師からの依頼に応じて口腔ケアや嚥下体操を実施した。新卒で経験値が低いため、スーパーバイザーの歯科衛生士の相談・指導体制が整っている。業務過程での交流を通して、歯科衛生士の役割が周知され、多職種連携が一層深まり、歯科衛生士が専門性を発揮しチーム医療の一員として寄与することによって、求められる役割や新たな課題も明確になったことを報告する。

演題5 オーラルフレイル予防の現場から ～能勢町における歯科衛生士の取り組み～

○福岡智子（大阪府能勢町福祉部健康づくり課）、上田和美（はぐくむ歯科クリニック）
槌谷三桂（大阪府歯科衛生士会）

高齢化の進行に伴い、オーラルフレイル予防は介護予防の重要な柱となっている。本発表では、能勢町において歯科衛生士が地域に根ざして行っているポピュレーションアプローチやイベント参加、巡回指導などの多様な取り組みを報告する。専門職による継続的な介入が、住民の健康意識や生活への前向きな変化につながっている様子を、アンケート結果や住民の声を通じて可視化した。また、行政・町民双方にとってのメリットや、今後の展望についても触れ、地域包括ケアの中で歯科衛生士が果たす役割を考察した。現場の実践を通して、住民が地域で自分らしく暮らし続けるためのちからづくりに、歯科衛生士がどのように関わっているのかを報告する。

当日は、このプログラムをご持参及びご参照ください